

第4回こども政策の強化に関する関係府省会議
働き方改革の推進とそれを支える
制度の充実について

ジェンカレッジ代表 櫻井 彩乃

自己紹介



#男女共同参画
ってなんですか

開始：2020年7月1日

ジェンダー平等に対する30歳未満の声を政治に届けるプロジェクト。第5次男女共同参画基本計画策定に向け、30歳未満の声を集め、寄せられた意見と提言を提出。



ジェンカレ 設立：2021年6月20日

GENCOLLEGE

ジェンダー平等な未来を創造する次世代のサードプレイス
次世代のジェンダー平等社会の担い手がジェンダーレンズを磨き、
ジェンダー課題解決力を身につけていただくための場。

〈公職等〉

こども政策の推進に係る有識者会議 臨時構成員

内閣府男女共同参画推進連携会議 有識者議員

横須賀市男女共同参画及び多様な性の尊重に関する審議会委員

Torch For Girls 代表

#男女共同参画ってなんですか 代表

GENCOURAGE 代表

櫻井 彩乃 (28)

若者を取り巻く現状（少子化）

- 「年間出生数80万人割れ」について、若い世代は、当然の帰結であると冷めた目で見ている。政府、それは出生数急減するよね…という感覚
- 子どもを産むか・産まないかは一人ひとりが選ぶ権利があるのに、その権利すら守られているとは思えない政策に関するニュースが連日SNSを賑わせている
- こどもを望む人たちまでもが、様々な理由により、諦めなければいけない、結婚や子育てに希望が持てない
- 「結婚やこどもはコスト」「人生最大のリスク」
「こどもかキャリアか選ばないといけない（特に女性）」
「自分の人生が生きられなくなる」
「お金がかかりすぎる」「奨学金の返済を抱えているから無理」
「時間・お金・心の余裕がない」

結婚や子どもを諦める要因（一部）

- いまだ根強い性別役割分業意識
- 男女間賃金格差
- 妊娠・出産・育児でのキャリアの断絶
- 結婚や出産を当然と考えている社会の価値観、制度、他者からの意見などにより自分の望む選択ができない
- 不安定な雇用・賃金上昇期待の無さ（特に男性）
- 生まれてから今までほとんど日本経済が成長しない中で育つ
「経済は成長する、賃金は上がる、今日より明日はきっとよくなる」
という感覚は、若い世代と話していて、全く感じない

子育て以前に、そもそも自分たちの未来に希望が持てない

自分がそもそもこの社会に生きることには絶望しているし、
未来に希望が持てない。

子供の頃は、普通に働いていたら家も買えて
車も買えて海外旅行に年一回行ける、
60歳で退職したら年金でのんびり暮らせると
思っていたけれども、賃金は下がり続けて、
今を生きるのに必死で海外旅行になんて行けない。

年金は65歳までもらえないし、コンビニやファストフード店で
働いている高齢者を見て死ぬまで働かされるんだなと思う。

若者が望む政策（一部）

前提：その時々々の政治状況で、一時金の支給とその金額分だけの財源確保を急ごしらせするのではなく、「この仕組みならば先々もちゃんとイメージできる！」と思える制度設計をしていただきたい。

■雇用の安定と賃金上昇

- ・ 経済的不安から、結婚や子育てが人生の選択肢に入れられない
- ・ 一時金等では根本的には解決できない
- ・ 少ない収入から、奨学金という名の借金返済まで抱える中、デートや恋愛は面倒なものとなり、結婚や子どものことを考えられないという状況

働き方改革の推進とそれを支える制度の充実

- 1.雇用の安定と賃金上昇
- 2.育児休業の義務化
- 3.キャリア形成支援/出産後の女性のキャリアの支援
- 4.採用時・職場での女性への差別解消
- 5.自営業者・フリーランス・非正規労働者の支援

1.雇用の安定と賃金上昇

■望まない形で非正規労働となった若者の不安定な状況や賃金上昇期待の無さに対して策を講ずることが、根本的な解決に不可欠

実際の声（一部）

- ・そもそも賃金を上げるべき。私が生まれてからずっと賃金が下がっていて希望が持てません。
- ・若者が使えるお金を増やしてください。娯楽に使えるお金が少なく、異性にウケる服を買う、遊びに行くために車を買う、おしゃれな場所に観光や食事に行く、ということが、お金がないために出来ず恋愛につながらない。
- ・子育て世代だけでなく、これから子育てをするであろう世代に長期的で安定した支援をしてほしいです。今の若い世代は本当にお金がなく、自分一人生きていくだけで精一杯で、他の人と暮らす(ましてや自分の時間とお金をかけて子供を産み育てる)なんてもってのほかです。
- ・今の収入では、子どものやりたいことを尊重してあげられるだけの金銭的余裕がない。人手が足りず、社会的支援も望めないから、1人でも不安なのに、複数人は考えられない。
- ・「男は稼ぎがないと結婚できない」という考えがまだあるので、結婚できない。

2. 育児休業の義務化

■ 育児休業を法で認められた期間取得できない

■ 家庭内の育児負担のジェンダーアンバランスが大きすぎる

→ 風土や気持ちや各家庭の問題に矮小化するのではなく、更なる法整備をしてほしい

実際の声（一部）

- ・ 男性も環境が許せば、育児休暇を取得したいです。しかし、育児＝女性という役割分業意識があるので、育児をしたいと言えません。男性育休の制度をつくっても社内では歓迎されない。
- ・ 男性も育休を取りやすい社会になって欲しい。出産後、夫の協力は不可欠にも関わらず、この時代にとらせてもらえない風潮が色濃いことに疑問です。形だけの制度ではなく育休を1年程取得するのが当たり前な社会になって欲しいです。（26歳）
- ・ 女性はすでにキャリアや自分の時間など多大な犠牲を払い、大変な中に子育てしていると思います。先進国とは思えない、家事、育児、介護などへのコミット度の性別による差が少子化を生んでいることを認め、男性の育休取得を必須とする等、積極的な政策を期待しています。

3. キャリア形成支援/出産後の女性のキャリアの支援

■子育てとキャリアを天秤にかける考えは、社会に根強く存在

■性別に関わらずどちらも人生の大切な要素。しかし、現状では女性のキャリアが犠牲になる

→子育てとキャリアを天秤にかけなくてよい制度、キャリアが断絶することへの偏見解消

実際の声（一部）

- ・子供ができたら仕事とか取り組んでることから離れざるを得ない。それが少し怖い。自分が休んでる間他の人はキャリアを積むし、キャリアとかなくなるのが単純に「嫌だなー」と思う。
- ・今の社会では女性が妊娠・出産後に職場復帰すると働きにくく、キャリアアップと並行することの難しさを感じる。
- ・0～6歳までに子どもにかかるお金だけでなく、最低レベルの家庭生活ができる補助がほしい。現状、子育てする/子どもがしたいことをさせてあげるために共働きである必要があり、「子育てのために生きる」ことになりかねない。自身のキャリアと子どもを天秤にかけたくない。

4.採用時・職場での女性への差別解消

- 結婚や子どもを産む予定を聞いたり、どうせ雇用しても頻繁に休むだろう、保育園の呼び出しで遅刻や早退も多いだろう・・・などの無意識の偏見
 - 本人の望まない配慮をされ、キャリアの積めない職場に追い込まれる
- 女性のいない場での政策決定ではなく、きちんと女性が望む形で、仕事と育児を両立できる環境を構築できるようにしてほしい

実際の声（一部）

- ・就職活動の面接で、「将来、子どもを望みますか？もし、望む場合は総合職は諦めてください」と言われた。少子化の解決というなら「女性＝子どもを産む」「産んだら仕事を辞める」と思っている人の価値観をアップデートさせてください。
- ・出産した上司が育休・産休を取ったら別の上司に「あの人のキャリアはもう終わりだね」と言われていた。実際に復帰した時、席はなくなっており、その様子を見て、女性が子どもを選ぶとこうゆうことになるのかと怖くなった。この会社にいるうちは私は子どもを選ぶことができなと思うし、これが日本社会のリアルだと思う。

5. 自営業者・フリーランス・非正規労働者の支援

- 働き方が多様になり、フリーランスや、ベンチャー企業、NPO/NGOなどの働き方に、違和感はなくなってきた
- 経営体力のある大手企業は、様々な制度や福利厚生があるが、多様な働き方の人がすべて守られるわけではない
- どんな働き方をしても子どもを持つことを望める制度が必要
→多様な働き方を受容し、どんな働き方の人でもサービスに十分にアクセスできるようにしてほしい（産休・育休に相当する給付・保育サービス等）

実際の声（一部）

- ・保活の点数が足りなくて、保育園に入れなかった。偽装離婚するしかないのかな...
- ・フリーランスなので、産休や育休の制度がなくその間お金が入らない。なので、仕事が安定したり、一緒に働く仲間を見つけない限り子どもは考えられない。（このままだと一生無理）

その他、若者が望む政策（一部）

■経済支援

- ・妊娠・出産における負担の軽減
妊婦検診費用の負担軽減、出産費用の無償化
- ・子育て費用の負担軽減
高等教育無償化、国公立完全無償化
奨学金制度の見直し
- ・全ての所得制限を撤廃
- ・こどもの医療費無償化
- ・ひとり親支援の所得制限廃止

■子育て支援

- ・産後ケア事業の利用料の減免
- ・産後、頼れる専門家の派遣
- ・病児保育の拡充
- ・保育所、学童の質の向上および預けやすさの向上

■知識・情報・相談窓口の啓発

- ・妊娠・出産を希望する/しないに関わらず、包括的な教育の実施
- ・予期せぬ妊娠・性感染症を防ぐ手段のひとつである避妊に関する認識や理解を深める教育の実施
- ・妊娠・出産や親になることを前提としないキャリア教育の実施
- ・SNSを活用した積極的なアプローチ
妊娠不安・妊活に関する相談窓口の充実・啓発
現行の制度などの発信

■その他

- ・ジェンダー平等を念頭に置いた意識改革などの政策、啓発
- ・固定的性別役割分担の解消

! 家族の多様性の尊重

- これまで示されてきた課題を解決し、結婚・出産の希望を持ち子育てしやすい社会へと近づけるものはいくつもある
- 養子縁組、事実婚、選択的夫婦別姓、選択的シングルマザー、同性婚など
- 現状、結婚（異性同士・法律婚）→妊娠・出産/子どもがスタンダード
- 社会のありかたをより多様なものとして捉えなおす法整備
若者の感じる未来へのイメージはずいぶん変わる

実際の声：

- ・自分の子どもがマイノリティだった場合、こんな社会に産んだことが申し訳無さすぎる。出産は子どもの意思なんか確認できない、親のエゴだけで行われる。だからこそ、こんなに素敵な社会で楽しい人生をスタートさせよう！とどんな子どもにも心から言える社会でなければ無理。どんな属性を抱えていても、権利が脅かされず、親が死んでも子どもが社会的援助で不安なく大学進学と就職ができる社会でないと子どもは産めない。

参考資料（若者の声）

- ・ 女性が出産しても仕事を諦めなければいけない現状を変えてほしい
- ・ 子育てのしやすさ、ひとり親でも子供を持てると思える社会制度を望みます。そして男性の育児参加のしやすさと同時に性別に関わらず例えば祖父母や他人であっても子育てに参画することをポジティブに捉えられる制度や文化情勢を望みます。全てを家庭、特に母親に押し付ける状態では少子化は解決しません。
- ・ どんな子どもでも絶対に権利を脅かされず、親や親戚がいなくなったとしても、マイノリティだとしても差別されず権利が保証され安心して進学し健康な生活が送れると感じられるようにしてほしい。
- ・ 子どもを産むだけではだめで、産んだあとの後約20年を社会全体で育てていくという姿勢が必要だと思う。育てることに困難を感じる社会では産めない。
- ・ 子どもがいてもいなくても、安心して一人で老いていける社会を作ってほしい。
- ・ 同性婚や選択的夫婦別姓を認めてください。
- ・ 結婚をしない選択が、変なことじゃない社会にしてほしい。
- ・ 長時間労働を是正してほしい。賃金を上げてほしい。
- ・ ジェンダー平等・SRHR念頭に置いた意識改革などの政策・啓発。
とにかく「女性は産む機械」と考えてるのが見える、浅はかな政策はやめてほしい。

- ・教育費を下げてほしい。生まれてきた子供が経済的理由で進路をあきらめるのは残念なので。大学は国立大だけでも無償にしてしまったらよいと思う。結婚や子供にマイナスイメージもないが、興味もないからやらないという私のようなタイプは実は多いと思う。そういう人間には、将来の不安を煽ったり、国への貢献度(?)観点での罪悪感を持たせようとしても無駄。

子供が欲しいと思っている人が安心して子育てができるように、生まれてきた人たちが経済的に困ることなく生きていける社会になれば良いなと思う。

- ・子供を持ちたいカップルはいます。ただ、経済的な理由で諦めたり、同性だから結婚ができず、子供を持つことにもハードルがあるケースが多いです。そこを理解した上で、恋愛力やら子供持ったら奨学金もらえるやら、おかしい政策でなく、経済的な支援をする政策を打ち出してほしいです。パートナーや子供を持ちたくない人の心を変える努力でなく、すでに意欲のある人の声を聞いてほしいです。
- ・シングルや同性同士で子育てする人への支援を行なうべきだと思います。結婚を前提とした、少子化支援は正直古臭く感じています。
- ・差別をなくして、生きていて楽しいと思える社会を作ってほしい。まずはそこから。
- ・補助金や給付金でなく給料を上げてほしい。

- ・今の若者が子供を育てない理由は何なのかよくヒアリングし、結婚を促進するだけではない政策（経済的なものなど）を拡充して欲しいです。
- ・出産すれば奨学金免除といった、経済的な理由を引き合いに出し、子どもを産ませようとする政策はやめて欲しい。奨学金の問題と少子化の問題を切り離して考えるべきである。
- ・本当に子どもを大切に思っていますか？今の日本の政策は、若者や子どもを蔑ろにしているように思います。政策が子どもを大切にしないことで、社会も子どもに冷たくなっているように感じます。まずは政府が、政策として子どもは日本の大切な存在であることを示してください。それによって、社会の子育て世帯に対する目も優しくなると思います。全ての子どもに、親の収入の制限なく、平等な経済的支援を求めます。収入がある世帯の子どもが増えることは、将来の税収入を増やすことに繋がり、政府にとっても必ずプラスになるはずです。
 - ・できる限り協力はするのでどうか産めよ増やせよをそういうことを望まない人には押し付けないでください。
- ・恋愛できる余裕があればいいです。経済的にも身体的にも、さらには時間も若者は余裕が欲しいと思います。何も気にせず勢いのまま、パーっと遊んでみたいものです。